

## 1年生 校内授業研究会 理科

2月17日(月)、1校時に1年B組の理科を池田先生が、そして4校時に1年A組の理科を杉山先生が、同じ単元の研究授業を行いました。

単元名は「身のまわりの現象(浮力)」で、ねらいは「いろいろな条件で浮力の大きさを比べ、浮力の大きさは体積によってきまることを見いだすことができる。」でした。

B組、A組の前時の「浮力の大きさは何によって決まるか？」では、次の仮説が出されました。

- B組
  - 水圧(1・6班)
  - 質量(2・3・7班)
  - 密度-質量・体積(4・5班)
  - 底の面積(8班)
- A組
  - 水量(5・8班)
  - 水深(3・4・7班)
  - 体積(1班)
  - 質量(2・6班)

これらの仮説を元に、実験をして、空気中の重さ、水中の重さをそれぞれ比較し、その差が大きく変わる仮説「体積によって浮力の大きさが変わる」に両方の組が気がつきました。

放課後に行われた研究協議会では、先生方から次の感想がありました。

「実験器具がすばらしい。わかりやすい実験器具を使っているのがすごいと思いました。あるものに到達するために、プロセスが大事にされている。わかりきったことでも地道にやっていくというのが理科のすごさだと思いました。4人グループで、やっていて発表もよかったです。」

「グループ内での生徒の様子について。3~4人



だったのですが、グループの役割、タイプなどを見ていました。A組では、女子が実験を進めている班がありました。ある生徒は学習を聞きながら整理して参加していました。またある生徒は、ほとんど声に出すことはなかったのですが、書く中で『〇〇なんだ』と自分の言葉で発言できた部分があったので、これが学び合いのよさなんだなあ、と思いました。グループ内の生徒同士が、みんなに支えられて自分たちなりに学習活動を行っていました。これが学び合いのよさなんだなあと思いました。」

「池田先生の授業では、実験で目が輝く瞬間が多々あり、学び合いのよさだとか、人間関係作りをしてくれているんだなあと思いました。二人の生徒を見ていましたが、一人の生徒に対する自分の課題がわかりました。自分の教科以外のところでも似ているところを見ることができて勉強になりました。杉山先生の授業では、A組の生徒の発言(発表)の中身がとても整理されていて小学校では、トップダウン式の発言などをやっているのですが、杉山先生から継続して育ててくれているんだなあと思いました。」

## JRC委員会で寄付します

今年度は、西仙北地区にある特別養護老人ホーム「ありすの街」へJRC活動をした基金の中から次の2台の歩行器を寄付します。

下の写真の歩行器は肘(ひじ)を黒い台の上にあてて前に進むことができます。上半身を歩行器に預けることができるので、とても動きやすかったです。また、もう一つの歩行器は、両手でハンドルをつかみながら、進むことができます。杖の代わりとなる歩行器ですが、これも車が付いているので、ゆっくりと楽に歩くことができました。ハン



ドルの下にブレーキが付いていて、そのブレーキを下まで下ろすと歩行器が全く動かなくなります。そういう状態で、椅子状になっているところに腰を下ろして座ることができます。また椅子のふたを開けると小物入れが付いていて、ちょっとした買い物のときは、そのかごに入れることができます。



JRC委員会では、毎月のアルミ缶回収、特定期間の古紙回収、また、学校祭でのチャリティーバザーや食堂の売り上げ等で得たお金で、これらの歩行器を購入し2月26日に寄贈する予定です。

アルミ缶回収、古紙回収、学校祭に訪れた地域の皆様のご協力に感謝申し上げます。

## 学校評議員会

2月19日（水）に、今年2回目（最後）の学校評議員会を開催しました。

4名の評議員のうち、諸事情により2名の方が出席されました。

はじめに、5校時目の授業を参観しました。

各学級で熱心に取り組む生徒の姿に心を打たれた、とお話されました。また、2年生の技術の時間では、マイクロコンピュータを使い、自分で描いたプログラムを模型の車に入れて、そのとおりに動く、という授業を参観され、時代の変遷はすごい、と驚かれています。



評議員会では、学校経営全般にわたる説明、生徒・職員・保護者アンケートの結果について、秋田県学習状況調査の生徒質問紙について、説



明を行いました。それぞれについて、お二人から熱心な質問や次の感想がありました。

「学び合っていてすごい。教室に入ってあの雰囲気は素晴らしい。自分たちの頃はあのような雰囲気はなかった。みんな集中している。」

「コの字と4人グループの形態があるが、どのように使い分けていて、どのようなタイミングでチェンジするのか？それは先生が決めるのか？」

この質問については、教頭先生がつぎのように答えました。

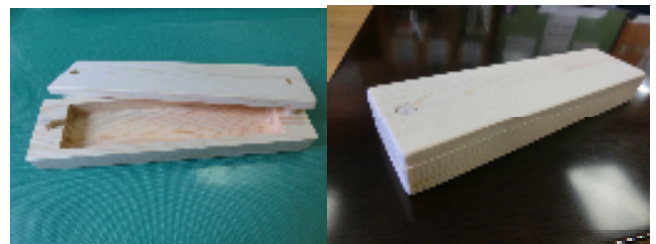
「生徒はグループに慣れてきた。当初はグループにすると、無駄話をしたり、集中できなかったりしていたが、今はそんなことは全くない。グループで解決するという意識が育ってきたからだと思う。分からない生徒に教える生徒も、教えている間に自分の考えが整理されてくる。最近の試験（数学）は、問題を解く経過を重視する問題が増えた。書く練習ばかりしていても力はつかない。このように考え方を重視していくと力がついてくる。」

最後に、総括的なお話をいただき、「学校に入ると前回来たときよりもさらに学校の雰囲気がよくなっている。」「昨年は、保護者の一部から統合に関する不安の声が少しあったが、今年はそのような不安な声は地域から一つも聞かれない。」とありました。

ご繁忙中のところ、評議員の皆さん、ありがとうございました。

## 素晴らしい作品完成！

F、G組の生徒3名が技術の時間に挑戦していた筆箱が完成しました。米松（ベイマツ）という種類の松の木からできていて、写真のようにコンパクトでなおかつ素敵な筆箱にできあがりしました。



作成過程の授業も拝見しましたが、熱心に作成した結果で、本当に素晴らしいできあがりとなっています。次の作品制作は何に挑戦するのでしょうか？楽しみなところです。